



国交省の立野ダム「技術委員会」 わずか3回の会合でダム建設容認



立野ダム技術委員会に要請書を提出 2016.7.27

国土交通省は、熊本地震による立野ダム予定地周辺の大規模な土砂崩落を受けて、ダム建設への影響を検討する技術委員会を設置しました。開催前日に偶然にも国交省ホームページで開催を知った私たちは7月27日に会場を訪れ、十分な検討や住民の意見を聞くこと等を求める要望書を提出しました。

8月3日の2回目の会合で現地調査が行われましたが、鮎返りの滝までの立野ダム水没予定地（約3 km）の4分の1程度しか調査がなされませんでした。黒川・白川合流点から上流の最も土砂崩壊がひどい場所を避けた、極めて不十分な現地調査でした。

8月17日に開かれた、初会合からわずか3週間の3回目の会合で、あっという間に「立野ダム建設に技術的な課題はない」との結論を出しました。住民はモニターで会場の様子を見ることはできましたが、委員会の会場に近づくことさえ許されませんでした。同省が選んだ7名の委員も、同省の見解に疑問を呈することはありませんでした。

ダム湖予定地の大半が崩落し、多くの断層の存在も明らかになっているにもかかわらず、同委員会は「立野ダム建設予定地に考慮すべき断層はなく、岩盤の健全性に問題はない」。流木や岩石等で立野ダムの穴（高さ5 m×幅5 m）がふさがり懸念についても「穴がふさがることはない」と結論付けました。

しかし、今回の地震による土砂崩壊とその後の増水で、熊本市内など下流の橋脚には多くの流木が引っかかり、有明海にも大量の流木が漂着しています。それらの大半は阿蘇カルデラ内で発生し、立野ダム地点を通ったわけであり、穴がふさがらないはずはありません。現に、直径約10 mの立野ダム仮排水路トンネルの入り口は、土砂や流木で完全にふさがっています。

阿蘇外輪山が立野で切れたのは、多くの断層が集中しているからです。火山地帯のカルデラの切れ目という、立野ダムの立地条件は最悪であり、流域に危険をもたらすものです。国土交通省は立野ダム建設を即時に中止し、917億円の立野ダム建設事業費を震災復興に充てるべきです。

【補足】詳しい資料を、当会のホームページに掲載しています。「技術委員会」の資料は、下記国土交通省立野ダム工事事務所のページに掲載されています。 <http://www.qsr.mlit.go.jp/tateno/index.htm>

●立野ダムをめぐる動き 2016年4月～9月

2016年4月14,16日 熊本地震で立野ダム建設予定地周辺が大崩落。直後より立野ダム予定地周辺を現地調査、報告書等を作成

- 4月28日 国交省に「立野ダム建設の即時中止を求める要請書」を提出
- 5月10日 熊本県知事に「立野ダム建設の即時中止を国交省に求める要請書」を提出
- 6月5日 「熊本地震と立野ダム」須藤靖明氏講演。250名参加（熊本市パレア）
- 6月15日 国土交通省に「熊本地震後も立野ダム建設に問題はないとする記者発表に対する抗議文」を提出
- 6月14日 7月の参院選挙立候補予定者に立野ダム建設に関する公開質問状を送付
- 7月2日 日本自然保護協会が立野ダム予定地の現地調査
- 7月23日 南阿蘇村で緊急学習会「ダムより生活道路を」。100名参加（白水庁舎）
- 7月27日 国交省が「立野ダム建設に係る技術委員会」を設置。要請書を提出
- 7月28日 南阿蘇村、阿蘇市、高森町に立野ダムに関する要請書提出
- 8月3日 国交省の「技術委員会」の現地調査。要請書を提出
- 8月17日 国交省の「技術委員会」が「立野ダム建設容認」の結論。要請書を提出。
- 8月29日 国交省が立野ダム本体着工1年延期を発表
- 9月16日 国交省に「立野ダム建設に係る技術委員会に関する抗議文」を提出
- 9月30日 財務省に「国営立野ダムに予算をつけないことを求める要請書」を提出

緊急学習会「熊本地震と立野ダム」250名が参加



超満員の緊急学習会の会場 2016.6.5

6月5日、緊急学習会「熊本地震と立野ダム」を熊本市で開きました。250名が参加し、会場は超満員でした。

講師の火山物理学者、須藤靖明さん（阿蘇火山博物館技術顧問）は、「立野ダム予定地は2つの断層に挟まれており、大規模な土砂崩壊が古今繰り返されている。ダムをつくっても穴が土砂でふさがり、洪水調節機能を果たせなくなるのは明らか。造るべきではない」「余震が続く中、まだ震源地となっていない地域で地震が起こる可能性が高い。その1つが立野で警戒が必要だ」と語りました。

7月23日に南阿蘇村の白水庁舎で開いた緊急学習会「ダムより生活道路を」には100名が参加し、地元からもたくさんの意見が出されました。

編集後記 私たちはこれまで、立野ダム建設に関して住民の疑問に直接答える説明会を開くことを国土交通省に何度も求めてきましたが、一度も開かれていません。一般の住民に直接説明もできない事業に、公益性はありません。6月5日の緊急学習会では、120名収容の会場に250名の皆様に来ていただき、立野ダムをつくってはならないという熱気を強く感じました。席も資料も足りずに、大変ご迷惑をおかけしたことをお詫びします。10月15日は土砂災害に詳しい村田重之先生（崇城大学名誉教授）をお招きして緊急学習会パート2を開きます。是非ご参加ください！（N.O.）